

## 9. 神奈川県川崎市

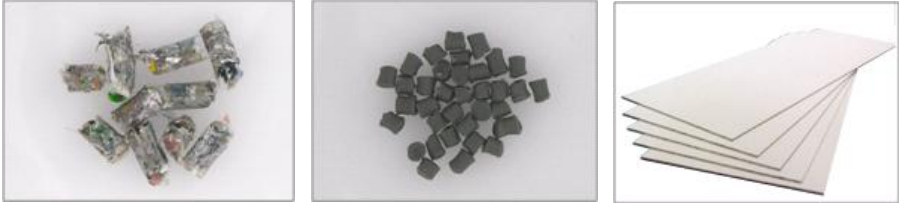
エコタウン名称	川崎エコタウン			
承認年	平成 9 年			
エコタウンの特長	<p>「川崎エコタウン」は、川崎臨海地区を構成する企業と主体となって、地域への環境負荷をできるだけ削減し、環境と産業活動が調和した持続可能な社会を目指すまちのことで。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内の企業が、生産工程から製品廃棄時にいたるまであらゆる面で環境負荷要因の削減の努力を行うまちです。</li> <li>・個々の企業の努力に加えて、企業間の連携やリサイクル施設を利用することにより、地区内の資源循環を目指すまちです。</li> <li>・環境への先導的取組みや、エコタウンにおける新たな取組みの経験・情報を広く市民及び内外の人々に提供し、地域・社会に貢献するまちです。</li> </ul>			
URL	<a href="http://www.city.kawasaki.jp/280/page/0000033344.html">http://www.city.kawasaki.jp/280/page/0000033344.html</a>			
自治体の取組	財政面の支援	例) 補助金、優遇措置、等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃ペットボトルについて、市から川崎市 PET 再生事業者協議会(2事業者)に市内収集総量の 75%有償譲渡しています。1社に市内収集総量の 25%を容り協単価の 2/3で、もう1社には市内収集総量の 50%を容り協単価の 1/2で渡しています(平成 25 年度まで)</li> <li>・平成 26 年度からは金銭的優遇は行わず、量的支援を行います。引き渡し量は、平成 25 年度と同様です。</li> </ul>	
	事業面の支援	例) 独自の認定制度、展示会、商談支援、等	上記、廃ペットボトル支援について量的支援を行っています。	
	その他	例) 産官学連携、協議会等の設置、情報発信、等	・エコタウン会館でゼロ・エミッション工業団地の取組や製品を常設展示、HP への掲載等で PR 支援を行っています。	
問合せ先窓口	担当部署名	川崎市経済労働局国際経済推進室		
	担当者名	稲辺 晶		
	連絡先	電話番号	044(200)2313	
		FAX	044(200)3920	
E メールアドレス		28keisu@city.kawasaki.jp		

## 9.1 JFEプラリソース株式会社

### 9.1.1 事業者情報

名 称	JFEプラリソース株式会社			
本社住所	〒210-0866	神奈川県川崎市川崎区水江町5番地1		
資本金、出資金	90,000 千円			
従業員数	約 70 人			
設立年月日	平成 21 年			
URL	<a href="http://www.jfe-plr.co.jp/">http://www.jfe-plr.co.jp/</a>			
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般廃棄物の再資源化およびリサイクル事業を行っています。</li> <li>・上記事業に関する技術・装置および再生プラスチック商品の販売を行っています。</li> </ul>			
事業所写真				
問合せ先窓口	部署名	JFEプラリソース株式会社福山事業部業務室		
	担当者名	堂原 有里子		
	連絡先	電話番号	084-981-3160	
		FAX	084-981-3170	
Eメールアドレス		yuriko-dohara@jfe-plr.co.jp		

9.1.2 技術情報

キーワード	一般廃棄物処理、容器包装リサイクル、高炉原料化、材料リサイクル、再生プラスチックボード			
技術名称	一般廃棄物処理			
技術の分類	破砕・選別			
目的・用途	高炉原料化手法による製品は高炉で使用される還元剤として、材料リサイクル手法による製品はバージンプラスチック代替として使用されています。			
特長	高炉還元剤の価格はコークスの約 1/4 です。 材料リサイクル製品の価格はバージンプラスチックの約 1/4 です。			
設備、製品等の写真、イメージ				
処理フロー図				
廃棄物の種類	一廃	廃プラスチック類 (PET除く)	受入条件、形状	分別基準適合物 ベール品
供給資源・製品	高炉還元剤		形状	10mm 以下 粒状
	材料リサイクル製品 (減容品)		形状	約 7φ × 8mm 円柱状
	材料リサイクル製品 (①ホットカットペレット) (②ストランド ペレット)		形状	①約 5φ × 5mm 円柱状 ②約 3φ × 3mm 円柱状
	材料リサイクル製品 (インゴット)		形状	約 150 × 150 × 1000mm 角柱状
	再生プラスチックボード		形状	600 × 1800 × 3~12mm 厚板状

アピールポイント	廃棄物等排出者側のメリット	例) 処理料金、買取料金、環境負荷削減効果、等	高炉還元剤手法では、製鉄所の高炉でコークス代替原料として利用され、石炭や微粉炭の化石資源の節約に寄与しています。材料リサイクル手法では、プラスチック製品の原料としてリサイクルされ資源節約はもとより、資源循環型社会の実現の一翼を担っています。
	製品購入者側のメリット	例) 環境負荷削減効果、製品の品質、販売価格、等	代替品と比較し、低価格です。製品加工後の商品に「容リプラ使用」と明示することにより、環境負荷低減となりました。環境配慮型企業であることをPRする一助となります。
	その他	例) 受賞歴、施設見学受入者数、等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低CO2 川崎パイロットブランド'09 選定 (2009 年度)</li> <li>・NETIS認定 (2009 年度)</li> <li>・エコマーク商品認定 (2010 年度)</li> <li>・福山市次世代エネルギーパーク関連事業場認定 (2012 年度)</li> <li>・見学受入者数 約 500 人 (2012 年度実績)</li> </ul>

### 9.1.3 実績情報


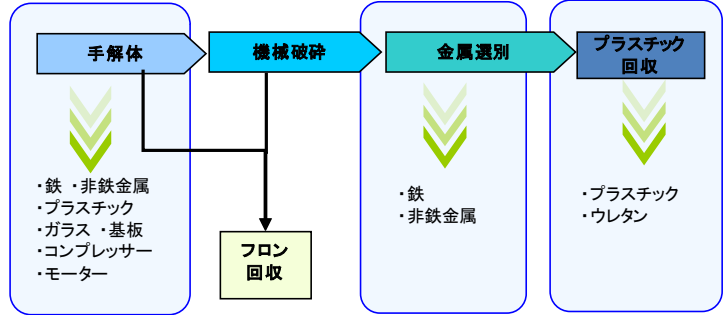
	品目名	平成 20 年度	平成 24 年度	単位
処理実績量の推移	一般廃棄物	12,213	29,214	t
	産業廃棄物	528	0	t
受入可能量	一般廃棄物	-	49,410	t
販売実績量の推移	高炉製品	5,795	13,265	t
	材料製品	2,326	6,085	t
主な調達先	容器包装リサイクル協会 (自治体から排出される容器包装プラスチック)			
主な供給先	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JFEスチール(株)</li> <li>・プラスチック加工業者</li> </ul>			

## 9.2 JFE アーバンリサイクル株式会社

### 9.2.1 事業者情報

名 称	JFEアーバンリサイクル株式会社			
本社住所	〒210-0866	川崎市川崎区水江町 6 番 1 号		
資本金、出資金	300,000 千円			
従業員数	約 100 人			
設立年月日	平成 10 年			
URL	<a href="http://www.urrec.co.jp/">http://www.urrec.co.jp/</a>			
事業概要	<p>1. 家電リサイクル法に規定される使用済み家電4品目の再商品化事業                  2. その他家電製品、OA機器の再生処理による再資源化事業</p>			
事業所写真				
問合せ先窓口	部署名	業務部		
	担当者名	佐羽内 史訓、井関 力		
	連絡先	電話番号	044-270-5370	
		FAX	044-270-5385	
E メールアドレス		f.sabanai@urrec.co.jp / c.iseki@urrec.co.jp		

9.2.2 技術情報

キーワード	使用済み家電、4品目			
技術名称	使用済み家電再商品化			
技術の分類	その他(廃家電リサイクル)			
目的・用途	使用済み廃家電の再商品化、その他家電製品・OA機器の再資源化			
特長	使用済み廃家電からフロン類の回収、解体、破碎、選別等の工程を経て、鉄、非鉄、プラスチック等を効率よく回収し、隣接する製鉄所で利用。			
設備、製品等の写真、イメージ	 <div style="display: flex; justify-content: space-around; text-align: center;"> <div data-bbox="454 645 766 896"> <p>破碎機</p> </div> <div data-bbox="798 645 1085 896"> <p>磁力選別機</p> </div> <div data-bbox="1117 645 1396 896"> <p>ウレタン減容機</p> </div> </div>			
処理フロー図	 <pre> graph LR     A[手解体] --&gt; B[機械破碎]     B --&gt; C[金属選別]     C --&gt; D[プラスチック回収]     B --&gt; E[フロン回収]     </pre> <p>手解体: ・鉄・非鉄金属、・プラスチック、・ガラス・基板、・コンプレッサー、・モーター</p> <p>機械破碎: ・フロン回収</p> <p>金属選別: ・鉄、・非鉄金属</p> <p>プラスチック回収: ・プラスチック、・ウレタン</p>			
廃棄物の種類	一廃・産廃	廃家電 4 品目(TV,エアコン,洗濯機,冷蔵庫)	受入条件、形状	
	産廃	その他金属くず(品目:鉄、銅、アルミ等)	受入条件、形状	
	産廃	廃プラスチック類(PET除く)	受入条件、形状	
供給資源・製品	鉄スクラップ		形状	鉄屑、シュレッダー屑
	非鉄スクラップ(銅、アルミ類)		形状	
	プラスチック類		形状	破碎品
	その他(ハーネス、基板類他)		形状	

アピールポイント	廃棄物等排出者側のメリット	例) 処理料金、買取料金、環境負荷削減効果、等	使用済み廃家電からフロン類を確実に回収。解体、破碎、選別等の工程を経て鉄、非鉄、プラスチック類を効率よく回収し、9割を超える高い再商品化率を達成。隣接する製鉄所とのシナジー効果を生かしたりサイクルを行っております。
	その他	例) 受賞歴、施設見学受入者数、等	平成 23 年度 川崎市「かわさき環境ショーウィンドウ大賞」 創エネ・省エネ部門入賞

### 9.2.3 実績情報

	品目名	平成 20 年度	平成 24 年度	単位
処理実績量の推移	廃家電4品目他	非公開	非公開	台
主な調達先	非公開			
主な供給先	非公開			
補助金等支援策の活用実績(過去 5 年間)	社団法人新エネルギー導入促進協議会の平成 21 年度補助金にて太陽光発電設備導入			


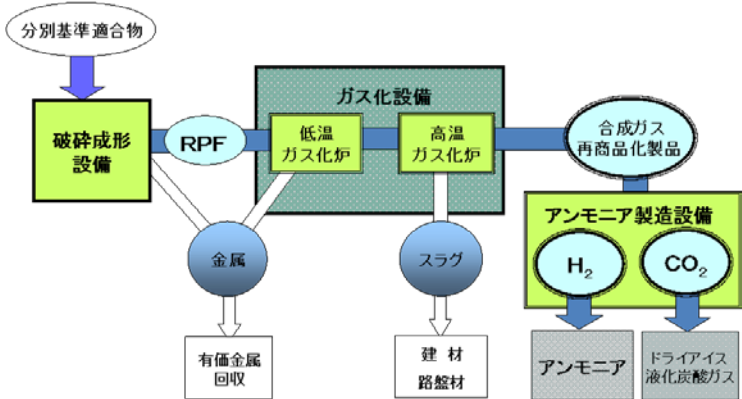
### 9.3 昭和電工株式会社

#### 9.3.1 事業者情報

名 称	昭和電工株式会社			
本社住所	〒105-8518			
資本金、出資金	140,564 百万円（2013 年 9 月 30 日現在）			
従業員数	10,397 人（2013 年 6 月 30 日現在）			
設立年月日	昭和 14 年 6 月			
URL	<a href="http://www.sdk.co.jp/">http://www.sdk.co.jp/</a>			
事業概要	石油化学製品、有機・無機化学品、エレクトロニクス製品、ガス、セラミックス、カーボン、アルミニウム製品などの研究・開発・製造・販売			
事業所写真				
問合せ先窓口	部署名	川崎事業所プラスチックケミカルリサイクル推進室		
	担当者名	竹田徹		
	連絡先	電話番号	044-322-6979	
		FAX	044-355-8435	
E メールアドレス		takeda.toru.xhkel@showadenko.com		



9.3.2 技術情報

キーワード	廃プラ、ガス化		
技術名称	使用済みプラスチック アンモニア原料化事業		
技術の分類	油化・ガス化・コークス炉原料化		
目的・用途	アンモニア原料である水素の取得		
特長	2段式ガス化炉による熱分解により水素と炭素ガスを製造		
設備、製品等の写真、イメージ			
処理フロー図			
廃棄物の種類	一廃	廃プラスチック類 (PET除く)	受入条件、形状
供給資源・製品	合成ガス		形状 ガス状
アピールポイント	廃棄物等排出者側のメリット	例) 処理料金、買取料金、環境負荷削減効果、等	プラスチックの種類を選ばず、塩ビ系樹脂や複合素材もガス化炉で使用可能
	製品購入者側のメリット	例) 環境負荷削減効果、製品の品質、販売価格、等	ナフサ由来のアンモニアと同等物性のため同品質のアンモニアの供給が可能
	その他	例) 受賞歴、施設見学受入者数、等	2003年から累計で30,000名超の見学者受入れ 2005年 3R推進功労者表彰受賞

### 9.3.3 実績情報




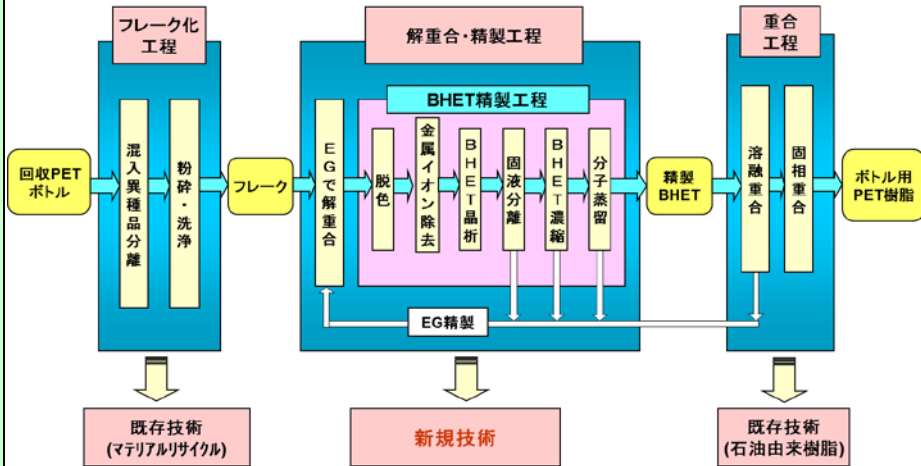
	品目名	平成 20 年度	平成 24 年度	単位
処理実績量の推移	廃プラ	44,289	56,315	t
受入可能量	廃プラ(容り品)	-	57,600	t
販売実績量の推移	合成ガス	893,760	911,304	GJ
主な調達先	日本容器包装リサイクル協会			
主な供給先	自社アンモニア製造設備			

## 9.4 ペットリファインテクノロジー株式会社

### 9.4.1 事業者情報

名 称	ペットリファインテクノロジー株式会社			
本社住所	〒210-0867	川崎市川崎区扇町 12 番 2 号		
資本金、出資金	1,000,000 千円			
従業員数	73 人			
設立年月日	平成 20 年			
URL	<a href="http://www.prt.jp">http://www.prt.jp</a>			
事業概要	<p>使用済みPETボトルを化学的に分解し、異物や色素を取り除き、従来のPETボトル用樹脂と同等の品質を有する樹脂に再生。 日本で唯一のケミカルリサイクルによるPETボトル to PET ボトルのリサイクル工場です。</p>			
事業所写真				
問合せ先窓口	部署名	管理営業本部 営業グループ		
	担当者名	伊藤 利子		
	連絡先	電話番号	044-366-3500	
		FAX	044-355-9355	
E メールアドレス		t_ito@prt.jp		

9.4.2 技術情報

キーワード	リサイクル		
技術名称	ケミカルリサイクル		
技術の分類	その他( ケミカルリサイクル )		
目的・用途	完全循環型社会に貢献		
特長	廃ペットボトルを原料として、バージン材と同等の樹脂を商業ベースで生産できる日本で唯一のケミカルリサイクル		
設備、製品等の写真、イメージ	<p>廃ペットボトル</p> 	<p>重合工程施設</p> 	<p>再生 PET 樹脂</p> 
処理フロー図			
供給資源・製品	再生 PET 樹脂	形状	
アピールポイント	その他	例) 受賞歴、施設見学受入者数、等	年間 約 1,000 人の工場見学を受け入れ

9.4.3 実績情報

	品目名	平成 20 年度	平成 24 年度	単位
処理実績量の推移	廃ペットボトル	5,605	19,663	t
受入可能量	廃ペットボトル	-	25,000	t
主な調達先	川崎市			
主な供給先	東洋製罐(株)			
設備投資の実績 (過去 5 年間)	PET 粉砕設備更新 再ペレット設備新設			